

文人大名松平定信と浴恩園

松平定信の晩年は築地にあった桑名藩下屋敷、その庭園「浴恩園」等での文化的営みを中心としたものでした。

そんな中で、古典の全文を筆写して軸装するという手間と時間のかかる営みに励んだ定信は、『源氏物語』を7度も筆写したと伝えられています。東京都公文書館所蔵の『徒然草』は9巻からなり、箱書きによれば文化年間(1804-1818)の初めに記し、その死後、遺品として大名朽木家に嫁いだ娘の信姫に贈ったものといえます。

以後、代々朽木家に伝えられてきましたが、たまたま昭和4年(1929)6月、渋沢栄一らが中心となり松平定信を顕彰する式典と展示が開催された際、当時の朽木家当主綱貞が情報を提供、その後渋沢のコレクションに加わったものと推定されています。



松平定信自筆『徒然草』全九巻